

---

## 1 4. 小諸宿の町並み・建物・物語を活かした商都再生の試み

小諸・町並み研究会  
(長野県小諸市)

---

### I. 活動の背景と目的

小諸市は、北国街道小諸宿と城下町の歴史を有する人口約4万人の高原の町です。

明治期には、近郷の物流基地として栄え、「小諸商人」の名を県下に知らしめ、立派な商家の町並みを形成してきました。しかし近年、その繁栄の中心であった立派な商家の並ぶ旧街道沿いは衰退し、商業の中心は駅前通りに移行しました。その駅前商店街も現在は落ち込みが激しく、中心市街地の商業は危機的状況となってきています。

また小諸には、島崎藤村、高浜虚子を始めとする多くの芸術家が住まい、「千曲川旅情の詩」などの作品を残しています。

このような歴史性と詩情に富む風景や町並みを育て、活かすことを通して小諸の中心市街地の再生の道を探ろうと、平成10年に「小諸町並み研究会」が発足しました。

平成10年度は、行政による「歴史的街路整備事業」「町並み環境整備事業」もスタートしましたが、行政の事業は基本的にはハードの整備を目的とするもので、町並みを育てるとか活用するという取り組みは含まれていませんでした。そこで、私たちの会では「町並み発見、学習」や「住民参加による施設計画」などのソフト部分に取り組み、行政とのパートナーシップでまちづくりを効果的に進めることを目指して活動してきました。

また、小諸市はその詩情性を活かして「スケッチ」をまちづくりテーマにしようと「スケッチ文化都市宣言」を行ったのですが、具体的な取り組みはこれまでされてきませんでした。そこで、当会の「町並み・風景の育成と活用」のテーマにからめて、スケッチをまちおこしにつなげるための具体的な事業を提案したいという思いが、会のメンバーの中にはありました。それが平成11年度の、当会の活動のアイデアにつながりました。

### II. 活動の内容

#### ●建物・景観調査(担当:ワーキンググループ)

町並みの特徴を都市形成史などの背景を踏まえて把握するために、千葉大学の建築学科の福川裕一先生を中心とするワーキンググループが、小諸の古い図面を集め、中心市街地をくまなく歩きました。

これにより、小諸のまちの成り立ちからみた地区別の特徴、および歴史的な建物の分布等を把握することができました。

また、まちかどの風景、橋のデザインなど「スケッチになるまち」の風景の要



与良町の町並みと居子庵の見学会

素を記録していきました。

#### ●「スケッチコンクール」の実施（実行委員会）

これは、できるだけ多くの市民に小諸の町並みや風景に目を向けてもらい、それを題材にどのようにまちおこしを進めるかを考えてもらうために企画しました。また、小諸の外



スケッチコンクール表彰式

にいる「小諸ファン」を掘り起こすことも狙いとしてしました。

「スケッチコンクール」は、町並み研究会を核とする実行委員会形式で行い、商工会議所、観光協会、老舗の会である「北国街道小諸宿の会」が共催になり、全市的に取り組むことができました。

8月1日から9月20日を募集期間として、スケッチ部門（まちかどスケッチ、写真）、まちづくり提案部門の2部門について作品を募りました。

最終的に約40点の作品の応募があり、写真やスケッチで「絵になるまちかど」がたくさん紹介されました。

また審査会、報告会を通して、今後の行政と市民が協力しあう「スケッチパークづくり」への提案が多くの人々の参加を得てまとめられました。

この提言書を市長に手渡し、今後の市政に反映していただくことになりました。

#### ★スケッチパーク・イベント（「与良・解体新書の会」主催、当会が共催）

また、スケッチコンクールの報告会に合わせて「高浜虚子旧居周辺を歩き、俳句をつくらう」という町歩きイベントが、大人から子どもまで100人ほどが参加して行われました。

#### ●核施設の活用案づくり（旧笠原邸活用にかかわる市民参加プログラムの支援）

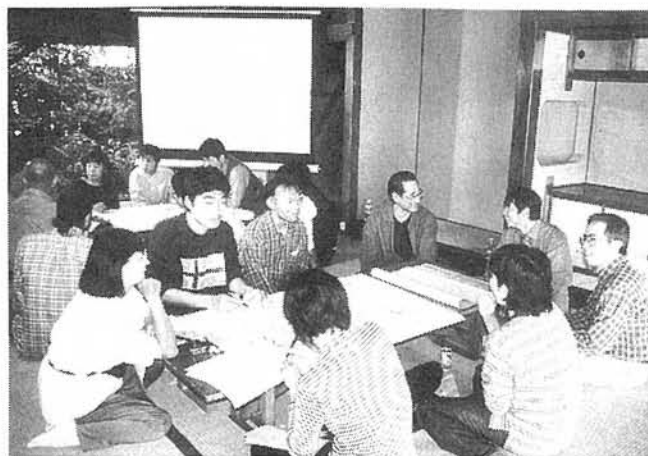
市の町並み環境整備事業の中で取得された旧笠原邸の活用計画策定に先立ち、当会では、千葉大の福川先生のチームにお願いして建物の実測調査を行いました。

また、本町まちづくり協議会が主体となった活用案づくりに対して、多くの人々の参加できるワークショップを提案し、千葉大学の学生などが実施の手伝いをしました。このワークショップのために、旧笠原邸の精巧な模型を作成したので、町屋の空間構成、デザインのアイデアを具体的に話し合うことができました。

旧笠原邸は、ワークショップの後も細部のデザインに至るまで住民との協議で進められ、当会でも本町まちづくり協議会の検討資料として、ファサードデザインの比較案の作成等を手伝いました。

#### ●報告書（資源カタログ）の編集

町並み調査とスケッチコンクールで



旧笠原邸活用ワークショップ

の作品を編集し、報告書を作成しました。また、持ち歩けるガイドマップをつくろうということで、現在編集に取り組んでいます。

### Ⅲ. 活動の効果及び今後の課題

#### ●パートナーシップによる「スケッチパーク」の実現へ

スケッチコンクール実行委員会の提案を受けて、今年度、小諸市では「スケッチパーク」の懇談会を立ち上げ、さまざまな団体の参加する体制をつくり、話し合いを進めています。また与良町では、すでに具体的な取り組みとして4月にオープンした「高浜虚子記念館」のソフトプログラムとして、俳句散策コースづくりに取り組み始めています。

#### ●旧笠原邸～本町の町並みづくりへの取り組みのひろがり

旧笠原邸の活用案づくり、デザインへの住民参加を通して、伝統町並みに対する学習や理解の輪を広げることの大切さと、具体的な修復の手法の学習が必要であることを、当会のメンバーも本町まちづくり協議会の皆さんも痛感しました。

そこで平成12年度は、住民、行政、地元建築業者、専門家（千葉大・福川先生、信濃建築史研究会・吉沢先生など）、学生が参加し、ワークショップ形式で学習を重ねながら「町並みづくりガイド」を作成することになりました。

このように、当会の投げかけもあって、今まであまりまちづくりへの市民参加のなかった小諸市に、さまざまな市民によるまちづくりの芽が生まれつつあります。

また第1段階の編集作業を終えた、「まちづくり資源カタログ（仮称）」の編集も、さらに進めていきたいと考えております。

このような先進的な取り組みを見て、今後小諸の他の地区でもさらに地区まちづくり活動が活発化しそうですが、それをどこまで支援できるのかというのが、当会の今後の課題です。

幸い、平成12年度もハウジングアンドコミュニティ財団からの助成をいただけることとなりました

が、その後の資金のめどはたっていません。特に、市街からの支援者（専門家、学生など）の交通費等は、まちづくり活動には不可欠です。

当会では、今後のひとつの方向として、NPO法人への移行を検討しています。

公的なコミュニティワークの委託を行政から受けたり、スケッチプログラムをビジネス化するなどで、活動経費を得る「まちづくり・町並みセンター」となることについての検討をしていきたいと考えています。



建物・景観調査